

## 2-3. 緑に関わる社会動向

本プランの緑のまちづくりを考える上で踏まえるべき、特に大きな緑に関わる社会動向を以下のとおり、整理します。

### ■感染症拡大等による価値観の変化・多様化に対応した様々な緑やオープンスペースの柔軟な活用

【社会全般】：新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う甚大な影響は、地球規模で社会、経済、さらには人々の行動や価値観などあらゆる面に波及しており、テレワーク等の就業構造の変化や大都市への人口集中リスクへの認識の広がりなどに伴う地方回帰の機運など、人々の価値観やライフスタイルの多様化がさらに進んでいます。

〔緑との関連〕⇒公園や自然等に求められるニーズも変化・多様化しており、街路空間や公園・緑地、水辺空間などの様々な緑やオープンスペースは、テレワークやテイクアウト販売の活用といった地域のニーズに応じた柔軟な活用が求められています。

### ■人口減少・少子高齢化の進行に対応した公園施設等の効率的な維持管理や多様な主体との連携

【社会全般】：我が国の人口減少は、今後、少子高齢化の進行に加え、老年人口さえ減少し、加速度的に進むとされています。また、高齢化等に伴う社会保障費の増大や公共施設等の老朽化などに伴う財政負担の増加が見込まれています。

〔緑との関連〕⇒公園等の施設の老朽化も進行していることから、施設の効率的な維持管理（長寿命化）を行うとともに、民間資源の活用や他自治体との広域連携など、多様な主体とのさらなる連携が求められています。

### ■グローバル化・ICTの進展による利用者等の変化

【社会全般】：ICTの飛躍的な発展や交通手段の発達などにより、グローバル化が一層進展する中、人・もの・情報の国や地域を越えた多面的な交流や新たな技術の幅広い分野での活用が求められています。

〔緑との関連〕⇒国においては、公園等におけるWi-Fi設置を促す動きやAIなどの新技術を活用し、公園の抱える課題の解決や利用者への新たなサービスを提供し、一層の魅力向上を目指す動きがあります。

## ■地球規模での環境問題・持続可能な社会への対応

【社会全般】：温暖化による世界的な気候変動や生物多様性の損失など、地球規模での環境問題が深刻化し、世界的に持続可能な社会が目指される中、地方自治体においても、SDGsの理念に沿った取組が求められています。

〔緑との関連〕⇒森林等の緑は、CO<sub>2</sub>の吸収源としての機能を有することから、それらの機能を適切に維持、保全等を行うことにより、SDGsの実現や本市の目指すゼロカーボンシティかごしまの実現に寄与すると考えられます。

## ■安心安全を脅かすリスクへの対応

【社会全般】：線状降水帯の発生等による大雨や台風のほか、地震や火山噴火など、安心・安全な生活を脅かすリスクが高まっており、リスクを最小限に抑える取組や迅速に回復できる体制が求められています。

〔緑との関連〕⇒公園等のオープンスペースは、災害時の一時的な避難地や緩衝帯としての機能を有することから、適正な配置や避難地としての施設の充実が求められています。また、近年、自然の持つ雨水貯留などの多様な機能を活用する「グリーンインフラ」の取組が推奨されています。